



青森市上下水道経営ビジョン策定に向けて

令和8年7月22日

第1回 青森市上下水道経営ビジョン検討会議 資料

青森市上下水道経営ビジョン策定に向けて

① 青森市上下水道経営ビジョン検討会議の背景	・ ・ ・	2 ページ
② 青森市の水道事業について	・ ・ ・	3 ページ
③ 青森市の下水道事業について	・ ・ ・	5 ページ
④ 青森市水道経営プランについて	・ ・ ・	7 ページ
⑤ 青森市下水道事業経営戦略について	・ ・ ・	9 ページ
⑥ 今後のスケジュールについて	・ ・ ・	11 ページ

① 青森市上下水道経営ビジョンの検討会議の背景

青森市上下水道経営ビジョンの概要

将来に向けた持続的な上下水道事業運営と関連施設の強靱化、安定的な経営を目指していくための青森市上下水道経営ビジョンを策定する。

上下水道事業を取り巻く環境と本市の課題

上下水道管老朽化による事故や災害への対応、強靱化が急務

○京都市での漏水事故
R7年4月30日発生
昭和34年布設配水管（約66年経過）



○所沢市での漏水事故
R7年2月24日発生
昭和54年布設配水管（約46年経過）



○八潮市での道路陥没事故
R7年1月28日発生

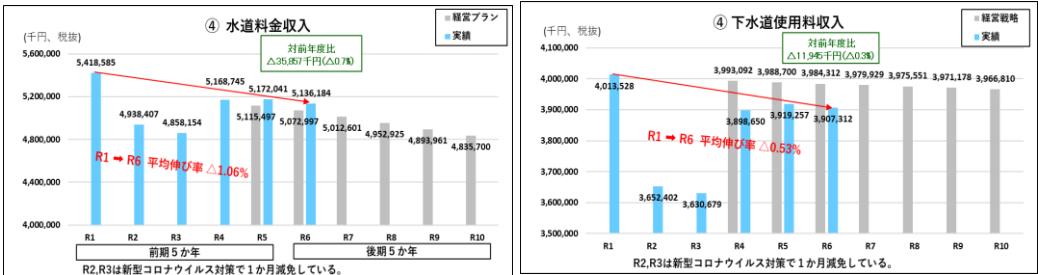


- 国からの上下水道耐震化計画要請（R13までに重要施設間の管路耐震化）
- 下水道管路全国特別重点調査の実施（腐食・破損等劣化のレベルに応じて1年or5年以内に改築・修繕）（R7調査・R8～改築・修繕）
- 国土強靱化実施中期計画の策定（R7.6）
- その他能登半島地震を受けての耐震強化や上下一体整備、集中豪雨による内水氾濫防止対策…などインフラ強化が求められている ◆物価高騰への対策も急務

本市の課題

■ 人口減少・有収水量の減少に伴う料金・使用料収入の減少

経営悪化



- 水道料金収入 H26:56.5億円 ⇒ R6:51.3億円(△5.2億円) 企業債残高141.6億円
- 下水道料金収入 H26:39.3億円 ⇒ R6:39.0億円(△0.3億円) 企業債残高561.0億円

■ 上下水道管・関連施設の老朽化 *R7年度末

- 水道管 経年率: 独自基準 11.2%
- 下水道管 経年率: 法定耐用年数 14.2%
- 水道施設 横内浄水場、堤川浄水場の施設改修
- 下水道施設 八重田浄化センター、新田浄化センター、蜷貝ポンプ場の改築等

重大な事故を招く恐れ

中・長期戦略に向けて

経営改善に向けた取組

R7年度～8年度

- ◇収支見通し推計・整備・改修優先度検討・財政シミュレーション
- ◇経営効率化・コスト削減策検討(検針・窓口外部化、包括委託etc)
- ◇不要資産解体処分・売却(油川・原別旧配水所)
- ◇寄附・協賛・広告収入検討
- ◇有収率増・水需要拡大策検討

R9年度～ ◆現行計画の見直し

【上水】水道経営プラン（2019-2028）R1-R10

【下水】下水道事業経営戦略（2023-2042）R5-R24

【上下水道共通】上下水道経営ビジョン

12年計画：中期財政見通し・政策・施策

収支見直し

(仮) 水道事業戦略プラン

(仮) 下水道事業戦略プラン

3年計画：ビジョンを推進する主要

事業・短期経営戦略

ビジョン策定にあたり、学識経験者等の意見聴取を行うため、「青森市上下水道経営ビジョン検討会議」を設置する。

② - 1 青森市の水道事業について

青森市の水道事業

本市においては、水道法に基づき「上水道事業」及び「簡易水道事業等」を実施しています。

《上水道事業》

- 青森地区は、横内浄水場、堤川浄水場、原別配水所、天田内配水所で構成されています。
- 浪岡地区は、花岡配水場で構成されています。

【各施設の現況等（令和7年度）】

施設名	施設能力 (m ³ /日)	1日平均配水量 (m ³)	施設利用率 (%)	主な給水地区
横内浄水場	43,200	20,738	48.00	青森市中心部
堤川浄水場	61,000	31,837	52.19	荒川・細越・大野
原別配水所	24,200	8,600	35.54	野内・原別・浅虫
天田内配水所	27,000	17,137	63.47	新城・石江・油川
花岡配水場	5,900	4,683	79.37	浪岡
上水道 計	161,300	82,995	51.45	

【トピックス】

- ・1日平均の配水量は、アスパム2.6杯分
- ・1日1人あたりの使用水量約260ℓ
- ・水道普及率 99.8%



青森県観光物産館アスパム
建物の体積32,000m³

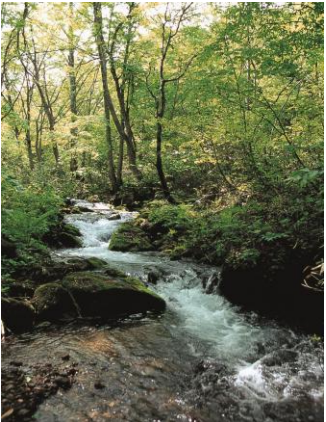
《簡易水道事業等》

- 青森地区は、雲谷、入内、孫内、岩渡、沢山の各地区簡易水道施設等から構成されています。
- 浪岡地区は、王余魚沢、細野・相沢の各地区簡易水道施設から構成されています。

【各施設の現況等（令和7年度）】

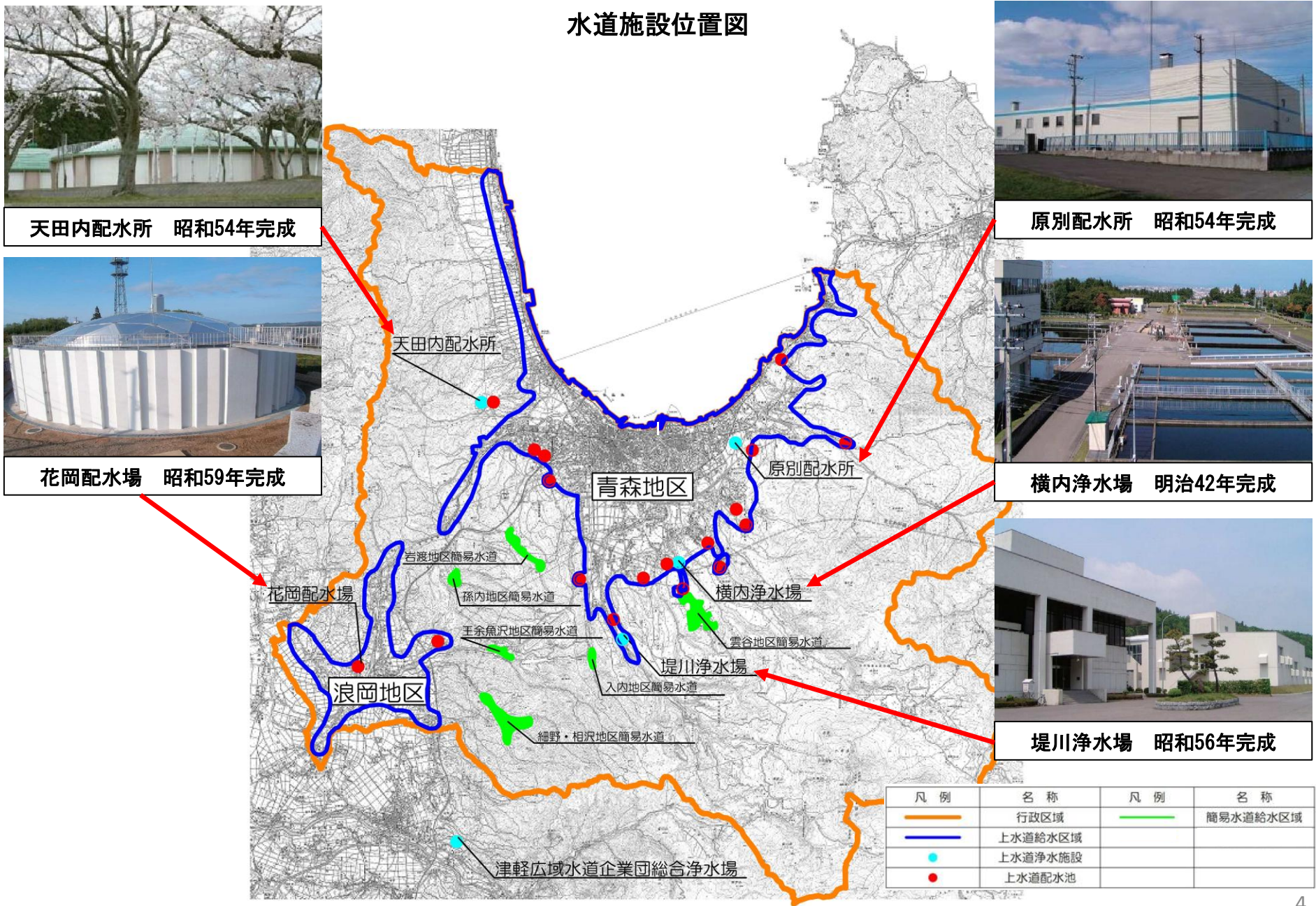
施設名	施設能力 (m ³ /日)	1日平均配水量 (m ³)	施設利用率 (%)	主な給水地区
簡易水道等 計	625	264	42.24	

※年間配水量 30,389,612m³
※平均配水量 83,259m³/日 × 家事用80.38% ÷ 給水人口256,270人 = 0.261m³ = 261ℓ



横内川水源地上流の清流

② - 2 青森市の水道事業について



③ - 1 青森市の下水道事業について

青森市の下水道事業

本市においては、下水道法に基づく「公共下水道事業」及び浄化槽法等に基づく「農業集落排水事業」を実施しています。

《公共下水道》

○青森地区

・JR青森駅を境に東側の「八重田処理区」と 西側の「新田処理区」で構成されています。

○浪岡地区

・岩木川流域下水道(県事業)に接続しています。

○下水の排除には、管渠に勾配を付けて流下させる自然流下式が一般的ですが、平たん地が多いという本市の特性から中継ポンプ場を多数整備しています。

【各施設の現況等（令和7年度）】

施設名	施設能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	1日平均処理水量 (m^3)	施設利用率 (%)	処理区・地区
八重田浄化センター	94,000	64,889	64.46	八重田処理区
新田浄化センター	26,400	17,561	66.52	新田処理区
流域関連公共下水道	—	—	—	浪岡処理区
公共下水道 計	120,400	82,450	64.91	

【トピックス】

- ・下水道普及率 82.0%
- ・水洗化率 90.6%

《農業集落排水》

○牛館地区などを対象に平成4年度に事業に着手し、平成18年度にはすべて完了。

- ・青森地区 9地区(牛館、諏訪沢、高田、孫内、入内、野沢、細越、八幡林、桑原)
- ・浪岡地区 1地区(野沢)

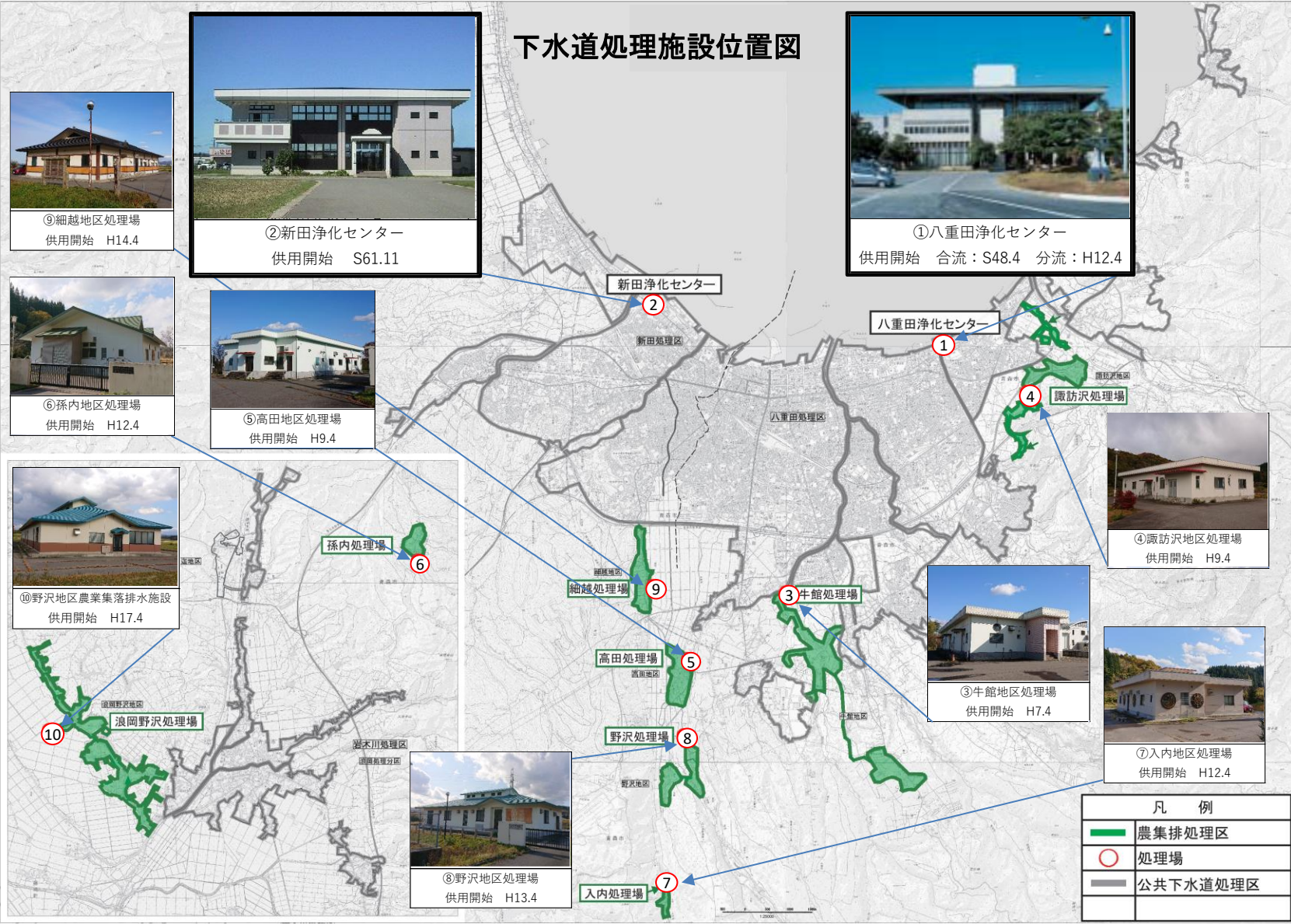
【各施設の現況等（令和7年度）】

施設名	施設能力 ($\text{m}^3/\text{日}$)	1日平均処理水量 (m^3)	施設利用率 (%)	処理区・地区
農業集落排水 計	2,822	1,260	44.65	



市街地と陸奥湾

③ - 2 青森市の下水道事業について



④-1 青森市水道経営プランについて

1 水道経営プランの策定について

人口減少等の社会構造の変化や施設等の老朽化の進展により収支状況の悪化が生じており、このような情勢を踏まえ、国から、事業を安定的かつ継続的に実施するための中長期計画である「経営戦略」策定の要請があったことから、平成31年3月に「青森市水道経営プラン(2019～2028)計画期間:平成31年度から令和10年度まで」を策定しました。

基本理念：真の豊かさをもたらす水環境

《 目指すべき方向 》

○安定した給水の確保 ○良質でおいしい水の供給 ○災害に強い水道の構築 ○経営基盤の強化 ○環境への配慮

2 水道経営プランの改定について

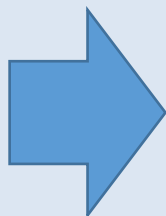
令和5年度が「青森市水道経営プラン(2019～2028)」の中間年度に当たるため、これまでの5年間の評価・検証を行い、併せて近年の社会情勢の変化や水需要予測及び将来の水道施設の需要更新なども踏まえまとめたアセットマネジメントについて整理・反映し、令和6年3月に改定しました。

(改定期間:令和6年度から令和10年度までの5年間)

3 水道事業の課題と基本理念について

＜本市の水道事業における解決すべき課題＞

- ・水源の確保
- ・水質の保全
- ・施設の耐震化の強化
- ・財源確保
- ・環境の保全



《 水道事業ビジョン 》
「安全」「強靱」「持続」

4 経営戦略

「経営戦略」は、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中期的な経営の基本計画です。その中心となる財政収支予測において、施設・設備に関する投資の見通しを試算した「投資試算」をはじめとする支出と、財源の見通しを試算した「財源試算」による収入にそれぞれ目標値※を設定し収支均衡させることが、持続可能な水道事業を実現する上で重要になります。

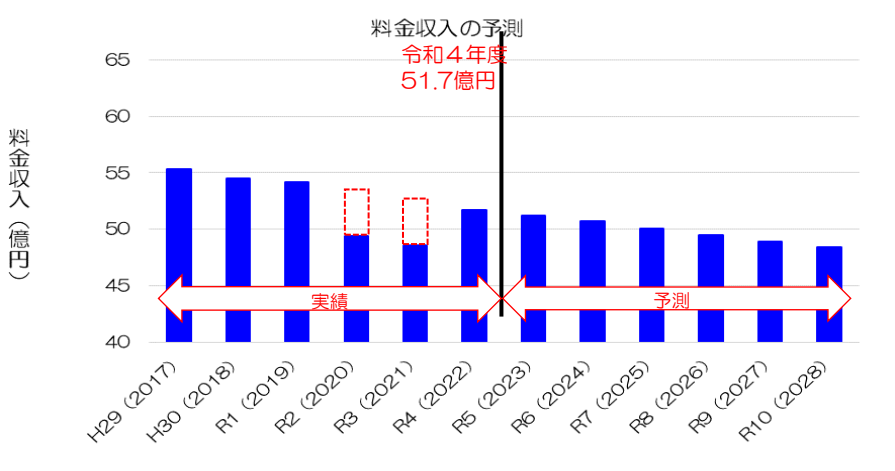
1 投資試算

- (1) 令和6年度から令和10年度までは、毎年度総管路延長の1%以上の更新を目標とします。
- (2) 施設の統廃合や長寿命化、管路の減径等により更新費用の削減を図ります。

2 財源試算

- (1) 給水人口は、令和4年度の約268,300人から、令和10年度には約248,700人と予測しており、6年間で約19,600人の減少を見込んでいます。
- (2) 料金収入は、令和4年度の約51億7千万円から、令和10年度には、約48億4千万円と予測しており、6年間で約3億3千万円の減少を見込んでいます。

3 財政収支の予測
料金収入の予測



注) R2、R3は新型コロナウイルス感染症対策に係る水道料金の免除を実施した。
なお、グラフの点線は免除を行わなかった場合の料金収入。

※目標値

- 継続して当年度純利益を確保する。
- 企業債残高対給水収益比率を281%以下とする。
- 自己資金残高を料金収入額の3か月分以上とする。

令和6年度から令和10年度までの投資額: 121.5億円

⑤－１ 青森市下水道事業経営戦略について

１ 経営戦略の策定について

人口減少等の社会構造の変化や施設等の老朽化の進展により収支状況の悪化が生じており、このような情勢を踏まえ、国から、事業を安定的かつ継続的に実施するための中長期計画である「経営戦略」策定の要請があったことから、平成29年2月に「青森市下水道事業経営戦略(計画期間:平成28年度から令和7年度まで)」を策定しました。

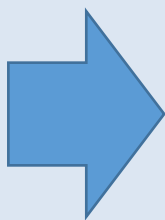
２ 経営戦略の改定について

その後、地方公営企業法を一部適用、全部適用と段階的に適用し、会計方式が「官公庁会計」から「公営企業会計」への変更により財政状況・経営成績の明確化を図ったことや近年の下水道事業を取り巻く環境変化などを踏まえ、令和5年3月に戦略を改定しました。
(計画期間:令和5年度から令和24年度までの20年間)

３ 下水道事業の課題と経営の基本方針

<本市の下水道事業における解決すべき課題>

- ・中長期にわたる安定的な財源の確保
- ・更なるコスト管理及び経費節減
- ・限りある財源の中での着実な設備投資
- ・老朽化施設の長寿命化対策
- ・衛生的な生活環境の確保



《 経営の基本方針 》

- 将来を見据えた下水道事業経営の健全化
- 下水道整備の最適化・平準化
- 下水道施設の持続可能な維持管理

4 今後の投資・財政計画

(1) 公共下水道事業

投資試算・・・約684億円

未普及解消整備(管渠新設)を継続して実施していくとともに、資産の老朽化に伴う大量更新時期の到来をストックマネジメントにより長寿命化することで、投資の最適化・平準化を図ります。

財源試算・・・約684億円

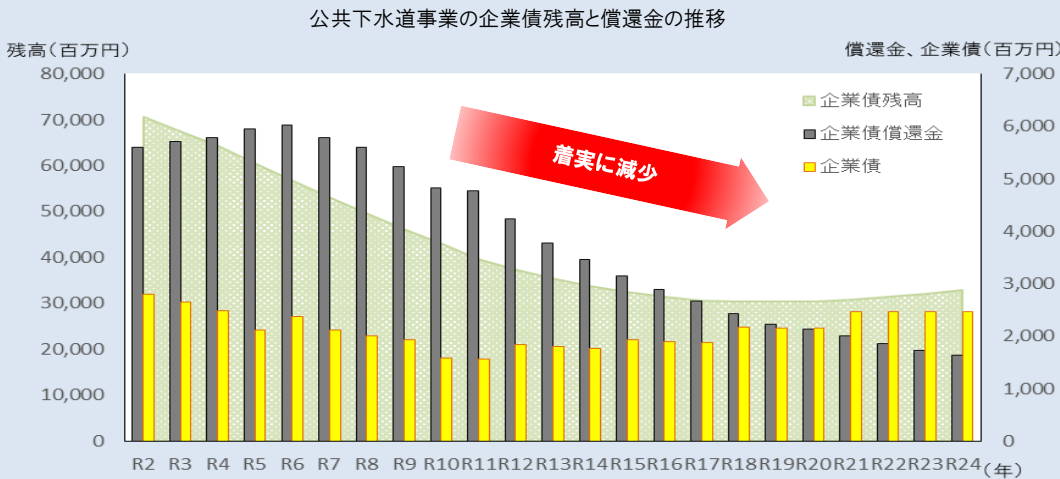
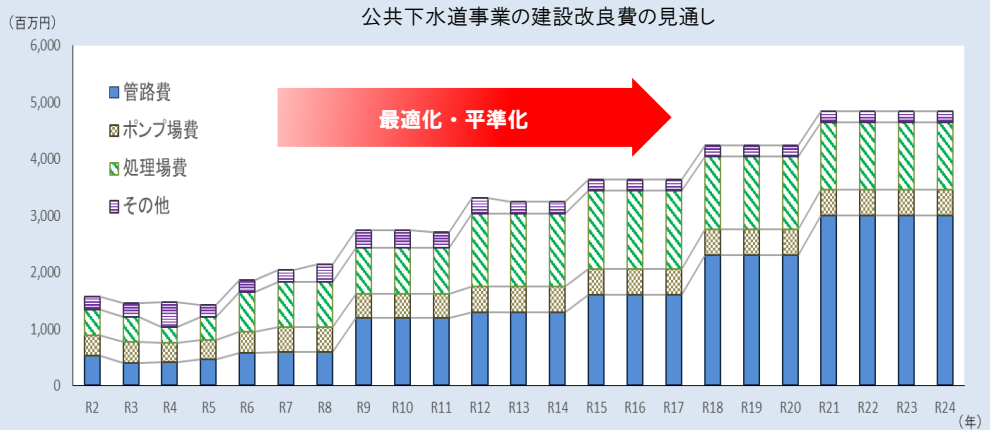
企業債償還がピークを迎える戦略前期を乗り越えながら、着実な投資を行うために、経費の削減に努め、一定の繰入金、国・県補助金の確保、世代間負担の公平性を保つための企業債の発行を行うこととし、現行の使用料水準のもとで財源を確保していきます。

※目標値	
○経常収支比率	100%以上
○企業債残高対事業費規模比率	671.42%
○資金不足比率(地方財政法)	0%

(2) 農業集落排水事業

投資試算・・・約9.1億円 財源試算・・・約9.1億円

牛館地区と諏訪沢地区の公共下水道への接続・汚水処理の共同化を見込んでいます。
また、マンホールポンプ場における老朽化対策を進めます。



⑥ 今後のスケジュールについて(ビジョン検討会議スケジュール)

青森市上下水道ビジョン検討会議 スケジュール

[illegible]